

応用編課題⑧

【名前】

講義「街中」と「口論」の内容を活かして、1200文字程度の文章を書きましょう。
シチュエーション「街中で突如始まった口論に巻き込まれる主人公」

車のクラクション、シンガールの曲が流れるビルのディスプレイ、ゴミを漁る鳥の鳴き声。ただその場にいただけでも、この街がどれほどの音に囲まれているのかが分かる。

木下は広場のベンチに腰をかけ、ぼーっと空を見上げていた。欲しいのは景色ではなく、あくまで目的が音だからだ。

けれどこの透き通るような青空を見ていると、なんだかどうでもいいような気もしてきた。

「汚い音……」

実際、綺麗な物というのは探せばいくらでもある。洋服、宝石、アンティークに建物。それらは実物として存在する綺麗な物だからだ。

けれど音は違う。感じ方や聞こえ方にまで差は生じ、残る物ではない。全く同じ音はこの世に存在しないと、それは作曲家を目指す誰もが知っていることだ。

「今日もスランプか」

すっかりスランプに慣れてしまった木下は、首にかけていた黒いヘッドフォンに手をつける。そしていつものように爆音でロックでも聞こうと思った時だった。

「なめんじゃないわよ！」

風船が割れたのか、そんな乾いた音がした。聞こえてくる女の金切り声。思わず木下はヘッドフォンから手を離れた。

驚いたのは木下だけでなく、広場にいた人々も同じように目を丸くする。声は後ろから聞こえてきて、木下は目線だけを後ろに向けた。

「バカなの？ 二股どころか六股かけていただなんて！ 信じられない！ サイテ

ー！！」
見えたのはカップルらしき二人組だ。一人の女は派手な化粧をしていて、叫ぶ声もインクが切れたペンのような不愉快なものだ。木下は静かに眉をひそめた。

コメントの追加 [na2]: なにをもってしてスランプと判断したのでしょうか。汚い音しか聞こえてこないからでしょうか。場所柄仕方がないようにも思えるので、木下の基準が知りたいです。

コメントの追加 [na1]: 「青空」の1ワードでおおよその時間帯が提示できているのが良いです。

コメントの追加 [na3]: 恐らく平手打ちかと思うのですが、その後説明がないのでわかりません。木下の憶測でもいいので入れましょう。

コメントの追加 [na4]: この女性からは(恐らく)平手打ち、金切り声、鳴き声の「音」が発せられています。この音に対して木下はどう思ったのでしょうか？ スランプであるなら、ここでスランプが打ち破られそうな「音」の出会いを模索してもいいでしょう。

もう一人はよれつとしたシャツを着た男でヘラヘラと笑っている。話からして男の方が失礼を働いたようだが、反省の色は全く見えない。していることといえば、無精ひげをさすっていることぐらいだ。

やれやれ、と木下は首を振る。関わるのすら面倒くさそうで、再びヘッドフォンを手を取ろうとした。

「なに見てんのよ！ そこ！ そこの黒いアンタ！」

げ、と口から漏れたと思った。まさかの女は近くにいた木下に目をつけたのだ。それも随分と的確に。

「どうせアンタも笑ってんでしょ！ 騙されるほうが悪いって！ ふざけんな！」

もう女はぐしゃぐしゃに泣いていて、化粧も黒い涙が出るほどにまで歪んでいる。

怒りを他者に向ける姿勢には関心しないが、ここで神経を逆撫でするのも面倒くさい。木下は話を合わせることにした。

「いえ、思っていないです」

「嘘！ 思っているくせに！ 何でアタシばかりなのよ！ いったって！ いったって！」

「思っていないですよ。本当に」

「うわああああん！」

崩れ落ちる女を木下は同情の目で見つめ、本心ではチツと舌を鳴らした。

(面倒くせえな。コイツ)

どうして、というならこっちのセリフだ。なぜ貴重な休みをお前の愚痴の為に使わなければならないのだ、と。